エイズ患者・HIV 感染者　世界では減少，国内では増加

国内 HIV 感染者、エイズ患者　昨年新たに 1500 人

昨年に国内で新たに判明した HIV 感染者、エイズ患者が過去最多の計 1500 人に上ったことが 20 日、厚生労働賞のエイズ動向委員会のまとめでわかった。年間の HIV 感染者、エイズ患者数が 1000 人を越えるのは 4 年連続。

動向委は「感染者は東京を中心とする関東に加え、関西や東海などの大都市での増加傾向が見られた。地域の実情に応じた対策が望まれる」としている。

まとめによると、新規 HIV 感染者は、前年比 130 人強の 1082 人、新規エイズ患者数は、同 12 人増の 418 人だった。

感染者を年齢別でみると、20～30 代の増加が目立ち、40 代も増加した。感染者の約 95%が男性だった。感染経路で最も多かったのは、同姓間の性的接触が 729 人。異性間の性的接触が 221 人で続いた。

献血者 10 万人当たりの HIV 陽性者数も 2.062 人で過去最高を記録。「関西の大都市で陽性者数が高かった。」（動向委）という。

（産経新聞 H20．5.21）

HIV 感染者、世界で 3320 万人　過去 10 年間で減少傾向

国連は 9 日、昨年 12 月現在の HIV 感染者が世界で推定 3320 万人に上るとする報告書を発表した。昨年新たにエイズに感染したのは推定 250 万人だったが、各国の対策が進んだことにより 10 年前の 320 万人から減少した。

報告書によると、エイズ関連で昨年死亡した人は約 210 万人だったが、2001 年の 390 万人から減少した。エイズの蔓延はサハラ砂漠以南のアフリカが最も深刻で、大人の HIV 感染者のうち 68%、子どもに限ると 90%を占める。昨年死亡した人のうち 76%に上った。

感染者数が世界全体で減少傾向を示す一方、中国やインドネシア、ロシア、ウクライナなどの感染者は増加。また、全世界で抗エイズ薬を必要としている人の約 30%しか薬を受け取れる環境にないと指摘した。

（産経新聞 H20.6.10）

先進国ではエイズ患者や HIV 感染者が減少している中、先進国である日本は唯一その数が増加している国である。エイズや HIV 感染は発症すると一生つきあっていかなければいけない病気である。そのためにはどうすればいいのか、患者にどのようなケアを提供すればいいのかを考えるため、また将来は中高生への性教育にも携わりたいと思っているのでこの問題を取り上げた。

○HIV、AIDS とは

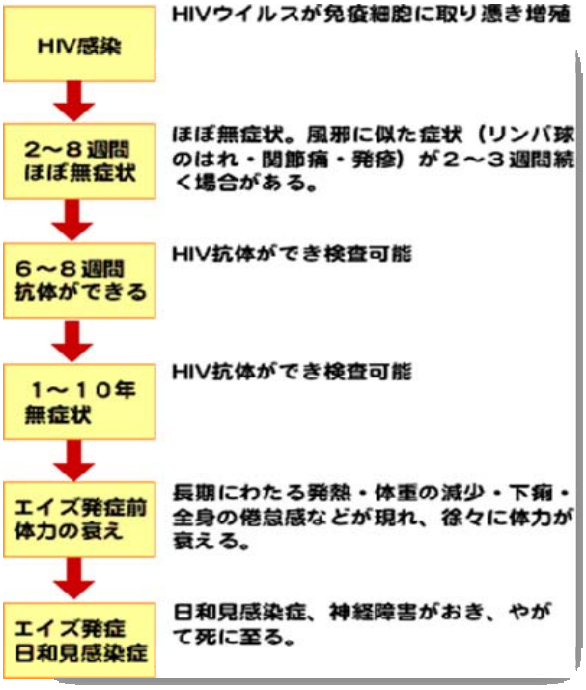
後天性免疫不全症候群（AIDS）はヒト免疫不全ウィルス（HIV）が免疫細胞に感染し、免疫細胞を破壊して後天的に免疫不全を起こす免疫症候群のこと。HIV に感染して 1 ～2 週間程度で全身倦怠、発熱など軽い風邪に近い症状が現れる。このような症状は 1 週間から長くても 2～3 ヶ月程度でおさまっていく。そのため感染に気づかない人が多い。多くの人は症状が軽減してから 5～10 年は無症状で過ご

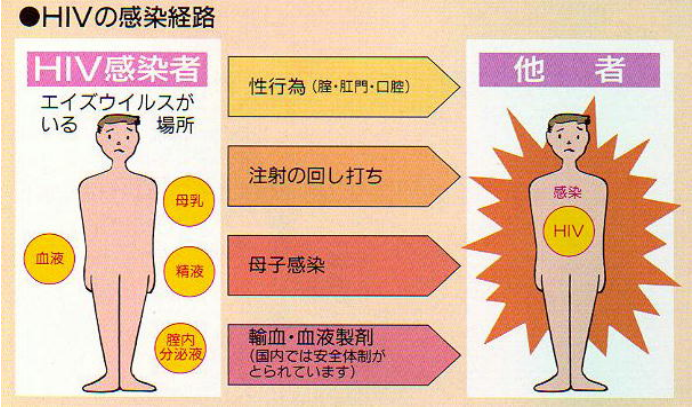
す。血液中の免疫細胞が破壊されある程度減少すると、免疫低下症状を呈するようになってくる。

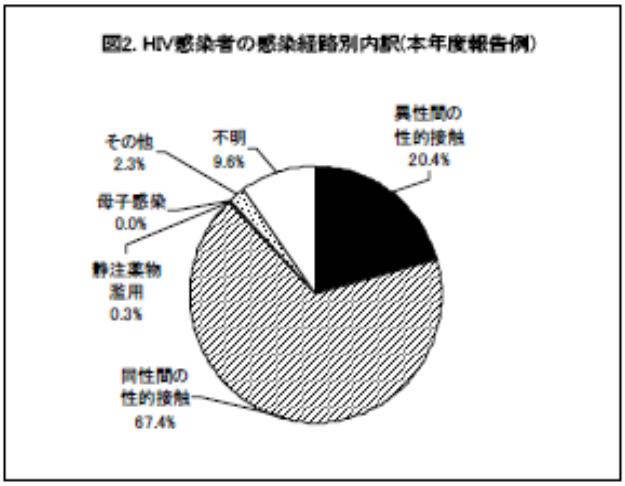
感染経路
※唾液、汗、涙などでは感染しない。
※ペットや虫を介しては感染しない。

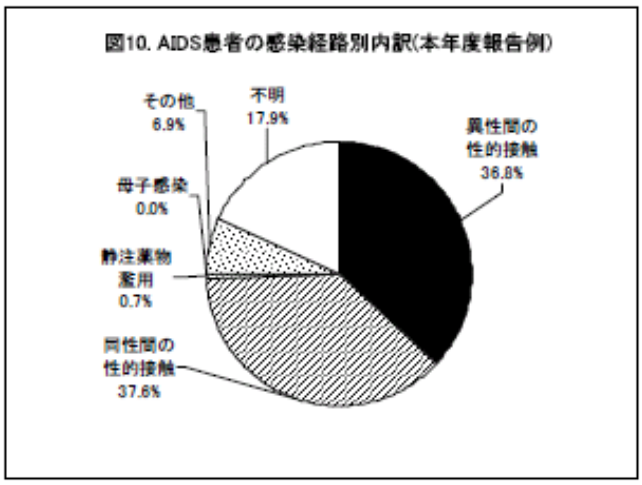
潜伏期
短くて6ヶ月くらいから長い場合は15年以上の場合もある。潜伏期間を過ぎると、身体の抵抗力が弱まり様々な病気にかかる。この発病した状態をエイズと言う。

参考文献（http://www.bethelumcfranklin.com/）



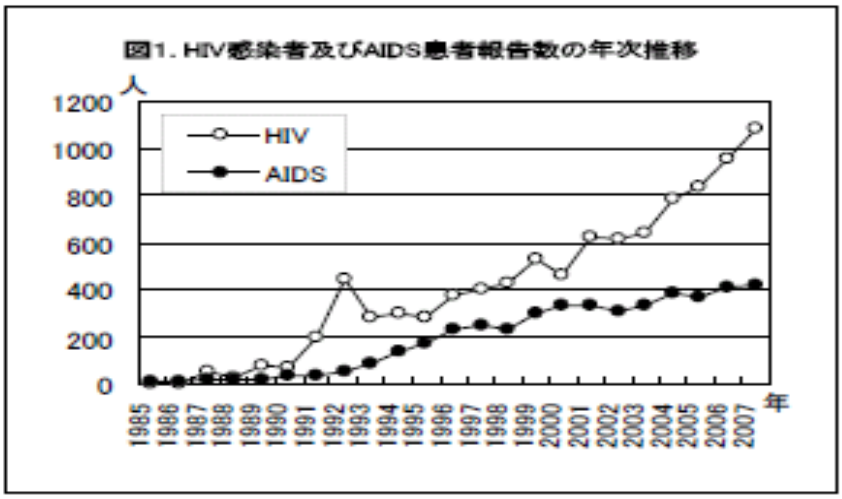






参考文献（厚生労働省エイズ動向委員会）

○国内患者、感染者の届出状況



HIV 感染者とエイズ患者の報告はそれぞれ過去最高となった。HIV 感染者とエイズ患者はあわせて 1500 件であり、平均すると「一日あたり 4.1 人」があらたに報告された。

参考文献（厚生労働省エイズ動向委員）

○もし感染していたら　～自分と赤ちゃんにできること～

妊婦 HIV スクリーニング検査（一次検査）で陽性

陽性が HIV 感染を意味しているわけではない。約 95%は二次検査で感染していないことが判明（PA 法：ゼラチン粒子凝集反応、EIA 法：酵素免疫測定法）

⇩

必ず二次検査を受ける！！

確認検査（WB 法：ウエスタンブロット法）

・検査は少量の血液を採取

・１～２週間で結果が分かる

・検査結果は本人に直接報告

⇩

初期に感染が分かると、赤ちゃんの感染率は 0.5%程度、お母さんも適切な治療が受けられる！

妊娠初期に HIV 感染が分かった場合で症状のない人は妊娠 14 週以降から治療開始。レトロビル（抗ウィルス薬）を服薬。

⇩

出産

・帝王切開

・分娩中もレトロビルを点滴

⇩

出産後

新生児には生後 6 週間、抗ウィルス薬を内服

母乳感染を防ぐため、粉ミルクを与える

参考文献（エイズ予防情報ネット http//api-net.jfap.or.jp）

○考察

この記事を読んだとき、世界の先進国では徐々に減少しているのになぜ日本では増加しているのか疑問を持った。

HIV を調べて、ウィルスは感染者の血液、体液、母乳の中に含まれ、この３つが主な感染源であることが分かった。そして、HIV の感染経路は性的接触が大半であることが分かった。知識のない無謀な性感染や、不特定多数の性行為を平気でする人が増えている。性感染に対する知識がなく、自分には関係ないと思っている人が多いと思う。以前、「彼氏の元カノの元彼の・・・を知っていますか」という CM をみたことがあるが、大きな衝撃を受けた。今付き合っている人が AIDS ではないにしても、どこかで感染している可能性はあるのだ。“自分は決まった人としか SEX してないから大丈夫”という考えは危険だと思った。このような無謀な性行為が増えているのは、まだ性教育が十分でないからだと思う。10 代の人工妊娠中絶が減らないこともこれが原因ではないだろうか。性教育を受けて、どう行動するかは子どもの責任だが、知らせないことは大人の責任である。AIDS、HIV 感染に限らず、性感染症すべてにとっても、性教育はこれから重視されるべきだと感じた。

また、HIV 感染症は治療できる慢性疾患であることを知った。しかし、患者自身が薬の服薬を適切に行えなければ、治療は失敗し、さらに薬剤耐性 HIV が出現することが分かっている。患者自身が服薬など、自己管理できるようにサポートしなければならない。そして、感染による身体への影響だけでなく、心理状態や、社会生活にも影響が及ぶ。エイズや HIV 感染症にたいしてまだまだ偏見や差別も強い。そのために、医師、看護師、薬剤師、カウンセラー、ソーシャルワーカー、等の専門職がチームとなって、患者を支えることが必要であると思った。

現在、エイズに対してさまざまなイベントが海外だけでなく日本でも開催されている。世界エイズデーイベント「RED RIBBON LIVE　2007」では、GLAY の TERU、YAKURO や絢香、加藤ミリアなどたくさんの歌手が音楽をとおしてエイズの予防啓発を訴えた。世界エイズデーである 12 月 1 日には世界中でいろいろなイベントが企画されている。赤いキャンドルを並べて、レッドリボンを形作ったり、各国でユニークな試みが毎年行われたりしている。このように、エイズや HIV 感染症は私たち一人ひとりの関わる問題となっている。決して他人事ではない。たくさんの人がエイズのイベントに参加して、自分をエイズから身を守り、またエイズ予防を訴えていけるようになってほしいと思った。

レッドリボンはエイズに対する理解と支援のシンボル